

広陵町竹取公園周辺地区まちづくり基本計画(案)に対する意見募集の実施結果と町の考え方について

広陵町竹取公園周辺地区まちづくり基本計画(案)を公表し、広く町民の皆様の意見を伺うパブリックコメントを実施しました。ここに、ご提出いただいたご意見とそれに対する町の考え方をとりまとめましたので、次のとおり公表します。

なお、ご提出いただいたご意見等は、趣旨を損なわない程度で要約させていただいております。また、類似のご意見につきましては、まとめております。

1 集計結果等

(1) 実施期間

令和3年1月15日(金)から令和3年1月28日(木)まで

(2) 提出方法、提出人数及び意見の数

提出方法	提出人数(人)	意見件数(件)
持参	—	—
郵送	2	9
ファクス	1	2
電子メール	5	35
合計	8	46

2 ご意見の概要と市の考え方

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
1	地域資源について（古墳群の活用）	近接する「三吉石塚古墳、新木山古墳」も、資源としてとらえ、周遊ルート等に入れ活用を図るべきである。	いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、計画区域内にある三吉石塚古墳や新木山古墳を含む周遊ルート案内について検討してまいります。
2		文化財特に古墳の魅力発信について、広陵町は、国民に誇れる「巢山古墳」があり、貴重な発掘もなされている。これを中心に、三吉石塚古墳、新木山古墳、牧野古墳、ナガレ山古墳など馬見丘陵公園内古墳があり、魅力発信の取り組みを進めるにあたっては、これらの古墳は欠かせないものである。また、河合町でも貴重な宝塚古墳がある。竹取公園内に歴史資料館を建設するか、河合町と協力し、馬見丘陵公園内に土地を提供してもらい、歴史資料館を建設する方針をもつべきであると考えます。歴史資料館については、「くつした博物館」の充実など、ほかの機能も併せ持つ複合施設として検討しても良いのではないかと。	<p>いただいたご意見を参考にしながら、近隣町に所在する古墳も含めた馬見丘陵古墳郡一帯の情報提供について検討を行います。</p> <p>歴史資料館については、広陵町の公民館建て替え及び文化芸術の振興のあり方委員会の報告を受けて検討してまいります。</p> <p>「くつした博物館」については、近隣の靴下関連の事業所との連携も含め検討を行います。</p>

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
3	地域資源について（ツアー・ガイド）	②-Fにおける『馬見丘陵公園内古墳ツアー』は奈良県（公園館）の事業であり、公園内の古墳に限定されている。奈良県が事業として、竹取公園地区に拡大して実施する計画なのか。県に確認の上、計画にあげる必要がある。	本計画は、広陵町と奈良県とのまちづくり基本協定に基づき、連携しながら、それぞれ役割分担に基づき事業を実施します。馬見丘陵公園内の古墳めぐりツアーについては、継続的な実施を行う予定です。なお、広陵町の実施している文化財ガイドのメンバーによるガイドについて、讃岐神社や竹取公園周辺へのツアー領域拡大も視野に入れて検討してまいります。
4		広陵町文化財ガイドをはじめ町内の有識人材をいきがい就労ボランティアとして活用することを検討すべきである。	いただいたご意見を参考にしながら、文化財ガイドや観光案内等を担う人材の確保や「なりわい（町産業総合振興機構）」との連携について、検討してまいります。
5		観光案内の体制について、「なりわい（町産業総合振興機構）」が「市町村観光協会」的な役割を狙い、観光振興に寄与していくべきである。	
6	地域資源について（讃岐神社）	讃岐神社の整備計画が参道以外になく、竹取物語の舞台としての広陵町の根拠である讃岐神社の活性化が必要である。讃岐神社のトイレが現在使用禁止となっているため、使用できるようにすべきである。	いただいたご意見を参考にしながら、讃岐神社の活性化及び神社内施設の利用については、讃岐神社の管理者との協議を行いながら、エリア全体の活性化に向けた方策を検討してまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
7	道路・駐車場	県道の整備費用は県が負担すべきである。	県と連携を図りながら町内外からのアクセス環境改善に向けた取り組みについて検討を進めてまいります。
8	整備について	道路整備について、竹取公園、馬見丘陵公園の周辺については議論されているが、地域の主要道路である「県道河合大和高田線」の讃岐神社以南は、開発時から道路拡幅ができていない状況である。県道を都市計画道路として位置づけられない状況にあるが、10年～30年後の将来を考え、拡幅可能なところを着実に用地買収する手法を考えるべきである。河合町と広陵町の「県道」に対する姿勢が現れているのではないかと。	
9		駐車場の拡大は考えず、マイカー自粛を優先させて歩く手段の充実を図ってはどうか。アクセスは、最寄り駅からのてくてくマップを充実させることで、五位堂駅からのハイキング道の誘導の充実を図るべきである。現状、馬見丘陵公園に誘導しているように思うため、それを竹取公園の南西を玄関入り口として誘導すべきである。また、かつらぎの道の看板の見直しを図るべきである。自転車通行帯の整備よりハイキングコースの充実見直しを図る方が良い。広陵町ウォーキングマップより近鉄てくてくマップに載せる方が良い。現状は、馬見丘陵公園でのウォーキングを楽しむ人達が多く、竹取公園はウォーキングが楽しめない。	いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、案内板等の設置による周遊ルートの整備に関する検討を進めてまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
10	道路・駐車場整備について	<p>課題抽出の際に、公園を利用している町外住民へのヒアリングがされているのか。駐車場の不足やアクセスのしづらさ、設備の有無についての意見が出されているが、これらの項目は実際に利用された方にアンケート調査等によってヒアリングしないと意味がないのではないか。「おそらく利用者はこう思っているのでは？」という過程の意見を前提にされたものならば、どんなに素晴らしいプランを作り、実行したところで効果は期待できないのではと危惧する。また、私の知る限り、他自治体の都市公園と比較して、竹取公園の駐車場が不足しているとは思えず、イベント運営時における一時的な需要を基準に整備を行うべきではないと思う。</p>	<p>駐車場の不足やアクセスのしづらさ、設備については、竹取公園周辺地区まちづくり基本構想(平成31年4月)策定時の竹取公園周辺地区まちづくりワークショップ(住民参加型会議)及び本計画の策定におけるアンケート調査等にて、ご意見をいただいたものです。</p> <p>開催時等の臨時的な需要については、佐味田川調整池の多目的広場としての整備検討において、臨時駐車場としての利用を含める等、柔軟な対応について検討してまいります。</p>

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
11	道路・駐車場整備について	<p>竹取公園周辺地区まちづくり基本構想について、基本構想4-2まではいいのだが、基本方針(コンセプト)として抽出した基本構想5-1の段階で理論の飛躍を感じる。「課題を解決するために効果的なもの」という基準で選んだというより、「事業のやりやすさ」という基準で選んでいるのではないか。例えば、利便性の高いまちづくりの項目だと、「地区内の県道河合大和高田線には歩道の未整備区間がある」についての対策は一切なく、バス路線の整備や駐車場増設、案内板の整備など、町として取り組めるものだけになっている。これらの施策を行うことで県道の歩道を整備しなくてもカバーできるという試算があれば、それらを明示すべきである。</p>	<p>本計画では、駐車場の整備や案内誘導に加え、「②-C: 巢山古墳・讃岐神社等へのアクセス等整備事業」において町内外からのアクセス環境改善に向け、引き続き県と連携を図りながら、検討を進めてまいります。</p>
12		<p>歩行者利便増進道路が有効なのは、駅前などそもそも歩行者が多い地域である。「駅から駅または駅から目的地までの間なら歩いてもいい」と思うが、当該道路はそのいずれにも該当しない。仮に現在のローソンあたりに商業施設が誘致されたとしても、当該施設と竹取公園を歩かせる導線だとしても、当該施設まで自家用車で来ているなら、竹取公園にも自家用車で乗り付けると思う。そもそも、竹取公園の利用者の多くは子連れの子育て世代かランニング愛好家であり、当該道路を歩いて訪れる者はどれほどいるのか。また、この整備事業でどの程度増えると見込めるのか。</p>	<p>歩行者利便増進道路は、車線を減らして歩道を拡げ、歩道等の中に通行区間とは別に歩行者の滞留・賑わい空間を整備するものであり、カフェやベンチ等の設置に関する規定が緩和されるなど、より柔軟に道路空間を利活用するためのものです。</p> <p>歩行者利便増進道路としての活用は竹取公園及び馬見丘陵公園を起点に相互の公園及び周辺の観光農園等の施設への回遊性の向上を考えておりますが、広陵町産業総合振興機構及び町内の事業者との連携により、実証実験等を行いながら、個別の事業計画の検討段階において、賑わいエリアの整備方法や継続的な利活用について、検討してまいります。</p>

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
13	竹取公園周辺整備について	沿道に花を植えるのではなく、公園に隣接する休耕田にコスモスやチューリップ等を植えることを勧める。 (県は毎年チューリップの球根をオランダから輸入していると聞いているため、イベント終了後、コスモスの種やチューリップの球根は無料で県から譲り受けられるはずである。)	いただいたご意見を参考にしながら、竹取公園内や沿道への賑わいのある植栽の検討を行います。
14	図書館・かぐやカフェについて	図書館を町の情報発信の拠点とするのは良い。図書館司書だけでなく館職員の分担業務として、竹取公園近辺のみならず町域の情報発信拠点となるよう人材を投入し、活用すべきである。	いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、図書館のあり方や地域情報発信の方策を検討してまいります。また、「③-H: 地域情報の発信事業(広陵町図書館のかぐやカフェの活用)」や
15		③-H「地域情報の発信事業」において、図書館内のかぐやカフェの活用が一番にあがっているが、民間のカフェに竹取公園の情報発信を期待すべきではない。広陵町自らがホームページやフェイスブック等を通じて情報発信すべきである。	「⑤-A: 地域情報の発信事業」において、町による地域情報の発信事業を位置付けており、SNSの活用による積極的な情報発信を行います。 また、かぐやカフェの今後の運営方法については、現在協議、検討中であり、「③-H: 地域情報の発信事業(広陵町図書館のかぐやカフェの活用)」の事業内容については、見直しを行います。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
16	図書館・かぐやカフェについて	かぐやカフェは現在休業中であるため、休業理由を調査分析し、図書館北側へ公園内を見晴らせる様なカフェテラスとして移転計画を立てるべきである。または、新築施設として、眺望良好なカフェ・レストラン及び販売施設の計画をすべきである。	かぐやカフェについては、今後の運営方法について、現在協議、検討を行っております。いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」において、カフェ・レストラン、販売施設の導入について検討してまいります。
17	竹取公園の活用や整備について（防災）	竹取公園には、防災かまどベンチ、マンホールトイレを整備することが望ましい。既存トイレは、洋式化するなど多世代が安心して利用できるものに改修する必要がある。	既存トイレについては、いただいたご意見を参考にしながら「③-B:公園施設（遊具等）リニューアル事業」において改修を進めます。なお、その他の施設については、個別の事業計画の検討段階において、竹取公園に求められる防災機能を踏まえ、具体的な整備内容について検討してまいります。
18		竹取公園のみんなの広場が災害救助活動の拠点として利用するため、広場改修計画・設計・ヘリポート離着陸・資材搬入場所・緊急車両の出入口・アクセス道路を整備するとあったのは良いと思う。そこに、防災備蓄倉庫を追加していただきたい。	防災備蓄倉庫については、「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」の事業内容にも記載のとおり、民間のカフェ・レストラン等の整備にあわせて併設することを想定しておりますが、いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、竹取公園に求められる防災機能を踏まえ、具体的な整備内容について検討してまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
19	竹取公園の活用や整備について (みんなの広場)	横峯公園、竹取公園のグラウンドを十分に活用しきれていないため、小学生を中心としたサッカーや野球、ラグビー等のスポーツクラブの立ち上げに関わり、支援することで、広陵町が文武両道の青少年育成のまちに発展することを願っている。	現在、広陵ステーションプラス1クラブという団体が中心となり、スポーツクラブの運営をしていただいております。 広陵町としましては、活動場所の提供などにより今後も支援を続けてまいります。
20		グラウンドを広く取り過ぎているのではないか。イベント時には、人が集まるが普段は厳しいと考える。	みんなの広場の活用方法や具体的な整備内容について、いただいたご意見を参考に広場改修計画・設計・整備の検討を進めさせていただきます。
21	竹取公園の活用や整備について (水路)	水辺や水路は全てコンクリートで覆われ、しかも水が流れていない。	水辺や水路についてはいただいたご意見を参考にしながら、「③-B：公園施設（遊具等）リニューアル事業」のなかで、個別の事業計画において検討を進めさせていただきます。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
22	竹取公園の活用や整備について（農産物直売所、カフェ・レストラン）	ファミリーでの利用が多いため、トイレや炊事場のあ るキャンプ施設を利用できるよう火気厳禁を廃止し、 「手ぶらでBBQ」など、デイキャンプや土日祝のキャン プ泊が楽しめる施設が欲しい。	いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画 の検討段階において、「①-A:農産物直売所整備事業」 における提供サービスの内容や、「③-A:民間活力によ る公園魅力施設整備事業」におけるカフェ・レストラ ンの事業内容の検討を進めてまいります。
23		地方のアンテナショップも兼ねた通信設備の整った、 地域密着型の道の駅ができれば賑わうだろうと考える。 例えば、海のない奈良からネットを通して、地方 の漁師さんと繋がり直接注文が可能になると良いの ではないか。	
24		給食センターを使った、学校給食が食べれるレストラ ン施設があると良いのではないかと。そこでは、地元の 野菜（例えば形の悪いナスなど市場に出せないもの） を中心に使用することも考えられる。古き学校の教室 をイメージしたつくりにするなども良い。また隣接し た畑からは子どもたちが自分で収穫でき、それらを料 理できたり、BBQにしたりなども考えられる。また、 貧困家庭の子ども食堂や、孤独老人支援も兼ねること ができればさらに良いのではないかと。	

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
25	竹取公園の活用や整備について（農産物直売所、カフェ・レストラン）	馬見丘陵公園内にある食堂は、ほとんどが高齢者であるにもかかわらず、ピザやパスタが主なメニューである。せっかくの来園者を“ただ”で帰してしまっているため、第3セクターを立ち上げ、奈良の名産柿の葉寿司と素麺を主なメニューとして提供することで、来園者の満足度を高め、賑わいの持続が期待できるのではないか。	いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、「①-A:農産物直売所整備事業」における提供サービスの内容や、「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」におけるカフェ・レストランの事業内容の検討を進めてまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
26	竹取公園の活用や整備について（イベント、新たな施設）	馬見丘陵公園や竹取公園は広陵町にとって大きな資源であるが、資源価値を高める施策を講じなければその資源はやがて廃れる。イベント中の土日などは、かなりの賑わいであるが、ほとんどが高齢者であるため、子供を中心とした賑わいを考え出さなければならぬのではないかと。例えば、「昆虫(カブトやクワガタ)の棲む森」、「メダカやザリガニの棲む池」、「冬場の閑散期に小学生を中心としたマラソン大会」、「ホテルの飛び交う水辺」が考えられる。	いただいたご意見を参考にしながら、「③-F:公園連携イベント事業」のなかで、個別の事業計画において検討を進めさせていただきます。なお、常設施設の整備については、財政負担を考慮しながら、検討を進めてまいります。
27		ネットを使用した囲碁、将棋、eスポーツなどができる集いの場所や雨天時でも遊べる室内大型遊戯施設（子育て&シニア交流施設）があると良いのではないかと。	
28		大型ドッグラン施設やミニ動物園があると良いのではないかと。	
29		粗大ゴミ等のリサイクル販売施設（自転車や子ども用具、ソファ等）があると良いのではないかと。	

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
30	竹取公園の活用や整備について（イベント、新たな施設）	行政主導のイベントは、町民があくまでお客さんとして参加しているから、コストの割に満足度が低い。せっかく施設を整備するならば、住民主体でのイベントをしようとする際のサポートを手厚くして、住民活動を活性化させたほうがイベントも増えるし、運営者として参加した住民の満足度が高い。そんなイベントが実現する公園の方が、たまたま訪れた町外住民にも町の魅力に感じてもらえるのではないかと。そしてそういう場を発信することこそ地域の魅力発信だと認識している。	本計画では広陵町産業総合振興機構を中心に各種ソフト事業の実施を計画しております。今後実施にあたり、いただいたご意見を参考にしながら、住民主体のイベントの実施による魅力の向上に向け、町の支援や情報発信について検討を進めてまいります。 なお、このような受け皿として、ハード事業として「③-D:みんなの広場改修工事」によるイベントステージの設置や「③-C:エントランス改修事業」による広場改修、
31		みんなの広場は、週末のドライブインシアター、スポーツ観戦、市民コンサート等の発表の場として活用することができるのではないかと。また、音声はFM（有料）で受信し、周辺には、地元飲食店の屋台等が並ぶと良いのではないかと。	「①-D:町道上田部奥鳥井線歩行者利便増進道路整備事業」による賑わいエリアの創出を検討しています。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
32	竹取公園の活用や整備について（イベント、新たな施設）	<p>「日常の賑わいを創出する」というコンセプトを評価する。非日常（イベント）を楽しむなら他の場所でもできるため、公園は日常を豊かにするものであってほしい。いつもの早朝をジョギングする。いつもの日曜を芝生で昼寝する。そんな日常をプラスアルファするカフェやベンチ、庭園、サービスなどがあると、「広陵町に住んでよかった」とか「こんなまちで日常を送りたいな」という感情が芽生えると思う。また、可能であれば、ガーデンテラスを必要とするカフェ（スターバックスなど）に公園の花壇の手入れなどもあわせて委託すれば、公園の維持コストも抑えられ、より有用性を感じる。一方で、これを重点施策にするにもかかわらず、真逆のコンセプトとなるイベントのための常設ステージの設置なども事業化されている点に整合性を感じない。</p>	<p>竹取公園及びその周辺地区における日常の賑わいとあわせて、地場産業の活性化や歴史的資源のPRに向けた、イベントの開催及びそのための施設整備を行うことにより、賑わいのある地域の創出や魅力的な公園の創出を図りたいと考えています。</p> <p>現在、広陵かぐや姫まつりでは毎年ステージを仮設で設営しており、継続的な費用負担が続いています。このため、常設化することで、より合理化を図れると考えております。いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、コスト負担軽減の視点も含めながら、公園内の施設整備や維持管理の手法について、検討してまいります。</p>

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
33	竹取公園の活用や整備について（エントランス）	竹取公園は馬見丘陵公園の付属物のようなものであると考える。馬見丘陵公園ではウォーキングを楽しんでいる人が多く、近隣住民は、竹取公園を通過して馬見丘陵公園に流れている。上田部・奥鳥井線の整備から竹取公園周辺の賑わいを創出しようとしているようだが、竹取公園の玄関はどこになるのか。信号機周辺を基本計画案にイメージされているような綺麗な交差点にするのであれば、馬見丘陵公園側が良くなるだけではないか。町民のための竹取公園とするならば、南側を玄関として充実させるべきではないか。	竹取公園北側の町道上田部・奥鳥井線を地区のエントランスとなるパークストリートとして捉えており、「①-D:町道上田部奥鳥井線歩行者利便増進道路整備事業」など、道路空間を有効に活用していくための事業を計画しています。また、「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」を実施しながら、北側における竹取公園エントランス性を高めたいと考えております。竹取公園等の魅力向上や周辺地区における新たな賑わいの創出に向け、馬見丘陵公園との連携も図りながら、引き続き検討してまいります。
34		竹取公園エントランスの商工会所有施設の活用計画を熟議する必要があるのではないか。	いただいたご意見を参考にしながら、商工会所有施設の活用方法について、検討してまいります。
35	竹取公園の活用や整備について（RVパーク）	RV パーク（キャンピングカー宿泊施設）は実証実験として、去年 11 月にオープンしたが、グリーンパレスまで行かないと申し込みができず、利用がしづらい。例えば、ボランティアの係員を配置することなど、改善が必要なのではないか。	いただいたご意見を参考にしながら、より利用のしやすい RV パークとなるよう、運営方法について改善策を検討してまいります。
36	佐味田川調整池	竹取公園周辺にフリーwi-fi を設置し、5G でのネットワーク環境で佐味田川調整池を利用して、車でのシアター鑑賞設備を導入してはどうか。ただし、近隣への配慮として音は車内へ送るものを考えている。	いただいたご意見を参考にしながら、「④-C:佐味田川調整池活用事業」のなかで、個別の事業計画の検討段階において、多目的な利用が進む環境整備について検討を進めてまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
37	重点事業について	「重点」と朱書きされた事業があるが、これらを重点施策とした根拠、形成過程がない。なぜ「農産物直売所整備事業」は「商業・サービス施設の誘致事業」よりも重要なのか、また、「民間活力による公園魅力施設整備事業」と重複しないのか、などの疑問を感じる。	<p>本計画の重点事業は、計画区域全体に対し影響が大きく、特に町の関与度が高く、多方面との調整による事業推進が必要なものについて設定しております。</p> <p>例えば「①-B:商業・サービス施設の誘致事業」は、民有地内で民間事業者が主体となり事業を行う内容であることに対し、「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」は町の所有する公園において、適切に事業実施を行う民間事業者を町が選定し、事業を進める内容と考えております。「①-A:農産物直売所整備事業」についても同様に、町が所有する公園施設において、特定農業振興ゾーンと連携して事業を行う内容となります。</p> <p>いただいたご意見を参考にしながら、計画書における事業設定のわかりやすい記載について検討をすすめてまいります。</p>
38	事業スケジュールについて	短期スケジュール終了年度の令和7年度以降の実施・運営が大半であり、全体としてスピード感に欠けるため、前倒しで実施すべきである。	<p>いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、各事業のスケジュール調整を図り、できる限り早期の事業実施に向けた取り組みを進めてまいります。</p>
39		移動支援については、中長期の整備ではなく、前倒しで整備を進めるべきである。	

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
40	事業効果評価指標 (KPI) について	<p>事業効果評価指標 (KPI) は、事業計画の効果を図る上で最も重要な指標である。令和 8 年度の目標値があげられているが、令和 3 年度以降、毎年の指標をあげるのが普通である。また、「観光・交流」で文化財ガイドのガイド案内件数が、指標としてあがっているが、竹取公園周辺地区のまちづくり基本計画にそぐわないのではないかと懸念されている。広陵町ボランティア文化財ガイドの会員は、広陵町全体の文化財を中心にガイド活動を行い広陵町のまちづくりに貢献している。竹取公園周辺地区が整備されることにより、ガイド件数は多くなるのが予想されるが、牧野古墳の横穴式石室の特別公開をはじめとして、広陵町の多くの文化財を PR することで、多くの人に広陵町の良さを認識していただき、結果としてガイド件数も多くなるのではないかと懸念されている。</p>	<p>各事業の個別の事業計画については、これからの検討を予定しておりますが、ハード整備を伴った事業については、概ね令和 8 年度以降での運営を予定していることから、事業効果評価指標 (KPI) の目標値を令和 8 年度のものとしています。また、各事業の実施によって竹取公園周辺地区の魅力向上や賑わいの創出を図ることで、文化財ガイドへの案内依頼及びガイド件数を増加させることが、地域の魅力等の情報発信につながることを期待し、事業効果評価指標の 1 つに「文化財ガイド案内件数」を加えています。</p> <p>いただいたご意見のような文化財の PR については、「②-F:歴史的資源の活用事業」等の中で、イベント実施について具体的な検討を行い、町内外へ古墳群や地域の魅力の PR をしていきたいと考えております。</p>

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
41	その他	④-A の事業について、駐車場整備の位置を地図で示してください。	P.8にて駐車場の位置を示すよう修正いたします。
42		どんな事業においても費用対効果という視点を忘れてはならない。魅力あるまちづくりによって住民の転出を抑制し、他都市からの移住者を呼び込むことができるよう効果的に事業を実施することが重要である。	いただいたご意見を参考にしながら、魅力あるまちづくりとなるよう、個別の事業計画を検討・実施し、成果を検証しながら計画を推進してまいります。
43		下水道の布設は開発にあわせて進められているのか。計画の立案も良いが、現状の心配な箇所を解消し、計画を進めるべきである。	下水道の布設については、広陵町公共下水道計画に沿って整備を進めてまいります。
44		令和2年からコロナ禍が始まった。コロナ対策がこの基本計画には反映されていないため、計画の見直しが不可欠であると考え。計画の見直しを行った後、第2回パブリックコメントの実施をお願いしたい。	いただいたご意見を参考にしながら、コロナ禍を踏まえた感染症対策等の視点、またコロナ禍収束以降の新たなまちづくりに対する視点について検討を進めさせていただきます。
45		地産地消をメインに展開するためには、自治基本条例に定義された「協働と参画」を実行し、「なりわい」が経営の中心として、農家や靴下などの業者と住民、行政と熟議ができるよう「(仮称)竹取公園企画運営協議会」を立ち上げることが必須だと考える。大手企業などへの全面業者委託は避けるべきである。	「①-A:農産物直売所整備事業」や「③-A:民間活力による公園魅力施設整備事業」におけるカフェ・レストラン等において地産地消に関わる事業を想定していますが、広陵町及び(一社)広陵町産業総合振興機構において、各事業者や住民との協働に向けた仕組みや体制について検討した上で事業を推進してまいります。

No.	項目	意見の主な内容	町の考え方 (回答及び対応)
46	その他	<p>ニューヨークのセントラルパークは、公園整備するため隣接住民に負担金を課し、その資金で地域住民のための整備を行うことで一帯の不動産価値を高め、地域住民に還元している。これをモデルに、県道河合大和高田線を一方通行にして歩行者利便増進道路にすることを提案する。公園に隣接する住宅からのアクセスを良好にすることで、当該地域に住む住民の満足度を向上させ、当該地域への付加価値を高めることで、公園を訪れた町外住民へのプロモーションになるのではないかと。人口密度も高く、エバグリーンなどの商店もある地域であるため、歩道さえ整備すれば歩行者が生まれるポテンシャルを秘めている。また、疋相、大垣内地域にある数多くの靴下工場は、観光資源として活用が可能である。課題としている讃岐神社との連携も図れるメリットもあるのではないかと。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、個別の事業計画の検討段階において、県と調整を行いながら、取り組み内容や地域住民との連携、地域情報のPR手法について、検討してまいります。</p> <p>また、町の地場産業である計画区域周辺の靴下工場との連携や観光資源としての活用についても、まちづくりに対する視点として検討を進めさせていただきます。</p>